

第 8 回「日中未来創発フォーラム」(福岡) 参加報告レポート

東京大学
文科一類 2 年
玉井春希

今回のフォーラムをお手伝いさせていただき、多くの経験をすることができましたが、その中でも特に印象的であったのが、異なる地域で日中交流に参加している日本の大学生と過ごせたことでした。

フォーラム自体は九州大学伊都キャンパスで行われましたが、参加者は佐賀や北九州など九州各地からあつまり、その中でも北九州市立大学の「中国言語文化研究会」からは約 9 人ものメンバーが参加したとのことでした。九州大学や佐賀大学で学ぶ中国人留学生との交流も非常に有意義なものでしたが、このような日本人学生との交流に、私はとりわけ勇気づけられました。

現在、日本と中国の関係は、未来志向の有意義な側面が多く見られるとはいえ、互いの国における排外主義や、それぞれの政府の方針の違いの影響を強く受け、民間レベルでの大きな広がりを見せていません。日本では中国人研究員による産業スパイ事件や大学院生に占める中国人の割合の増加が大きく取り上げられ、インターネットを中心に怨嗟の声が溢れていますし、中国でも人々の反日感情をあおるような映画やコンテンツが次々に制作されています。海を挟んだ両側にいる二つの国家の人々は、多くが直接相手の考え方や相手の生まれ育ってきた社会を知らずに生きながら、互いに憎悪や軽蔑といった感情を募らせています。そうした感情が自分達の生活をより豊かで自由なものにするのではないということを知りながらも、目を背けています。

そんな中で、中国語の勉強や文化への理解を通じて日中交流にすすんで関わり、日中の平和と友好に寄与したいと願う人は、とくに学生という層においては、非常に少ないという実感がありました。中国の大学生と日本の大学生で議論をする、というサークルを運営する中で、多くの人に活動を紹介する機会に恵まれてきましたが、少し驚いたような顔をされ（これは私がコンサバティブな考え方の持ち主であることを知っているからかもしれません）、中国への渡航は安全なのか、中国の人はやはり反日的な考えのひとが多いのか、将来のキャリアに影響はないのか、と訊かれることは、それなりの頻度で起こります。中国当局に日本人が拘束されたというニュースや、日本人の子供が襲われたというニュースが多く流れる社会で、日中交流と聞いて身構えるひとが多いのはある意味当然のことですが、この活動に携わり、日中関係の平和的な発展を願う身からすれば、少々寂しく感じられます。

ところが、今回のイベントで会った日本人学生たちは、中国に対する先入観を持って遠ざけることなく、むしろ普段から積極的に日本内外の中国出身者たちと交流し、協力して未来について考える人ばかりでした。ゲームやフィールドワークを共に行い、「環境」という大きなテーマから「大気汚染」「温暖化」「海洋資源」……と様々な課題を探し出し、協力して発表を作りあげていくプログラムのなかで、たった 1 日の短い時間であったにもかかわらず、参加者のなかには、国籍を越えた確かな絆が生まれていたように感じます。こうした企画に携わり、日中交流に関わる仲間たちと九州の地で出会えたことは、私にとって非常に勇気づけられることでした。

先ほど述べたように、現在、日中双方で、多くの人々が、日中のよりよい未来から目を背け、殻にとじこもっています。しかし、今回のフォーラムのような機会を設け、国境を越えた課題に向き合い、共に語ることを通じて、より豊かな未来へむけて進んでいくことは可能です。それこそが、政府同士の関係とは違った、いわゆる「民間外交」のあるべき姿であるように感じました。

最後になりましたが、今回のフォーラム開催にあたって尽力していただいた皆様に心より感謝を申し上げ、フォーラムの参加報告とさせていただきます。